

2021年度 事業報告書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

特定非営利活動法人 ホロコースト教育資料センター

【1】事業の成果

前年度に引き続き今年度も、一人ひとりの命と人権を尊重する心を育み、寛容で公正な社会を築くことを目指して、第二次世界大戦時のホロコースト史を教材とした教育事業を小学生から中学生・高校生、大学生、一般市民を対象に広く実施した。

2019年末に発生した新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインによる事業を始めてから2年が過ぎ、平行しながら学校訪問授業も再開した。パンデミックの広がりと共に、陰謀論や差別、憎しみを煽る言動、ホロコースト否認や誤った情報がインターネット上で拡散される状況に危機感を持ちながら、当NPOの設立以来の事業目的に沿って、歴史の伝承だけでなく、自らの社会をふりかえり、差別や偏見、異なるものを受け入れることができない人間の弱さを考える教育の機会をつくりだすことを目指した。

主な事業である学校訪問授業は55回(前年36回)、オンラインでの主催事業は38回(前年50回)、計92回の実施を通して、延べ9,605名に学習の機会を届けることができた。また、展示パネル及び教材の貸出に代わり、オンラインミュージアムを開設した。

学習の形態としては、昨年から継続して、講義だけでなく、問いづくりや哲学対話、アクティブブックダイアログなどを取り入れながら、対話を促し、思考を深めるアクティブラーニングを実施した。ヨーロッパスタディツアーの実施ができないなかで、写真や動画を活用した「オンライン歴史さんぽ」シリーズも継続して実施し、新しい試みとしては、3~4日間連続のオンライン版ドイツおよびポーランドスタディツアー(3-2-10参照)を開催し、全国から広く30~40代を中心とした参加者を迎えることができた。

特筆すべきは、前年度から当NPOのイベントに参加していた大学生有志が中心となり、実行委員会を組織して8月に『「わたし」と「れきし」』展(3-2-4参照)を開催したことである。一週間の開催期間で500名を超える来場者を迎え、新聞各紙にも取り上げられた。若者たちのイニシアチブによって、歴史から学び、対話する場がつけられたことは、当NPOにとっても大きな励ましとなり、今後の事業への参考となった。

ドイツ外務省及び連邦政治教育センター(民主主義を教える政府の独立機関)より委託を受け、国際歴史フェスティバルに日本パートナーとして参加した際にも、上記の大学生やインターン2期生として迎えた大学生が中心となって取り組んでくれた(3-2-15参照)。次世代の育成にも繋がる非常に有意義な取り組みとなった。

【2】事業の実施に関する事項

1 教材の制作及び提供事業（展示パネルの貸出）

ホームページにオンラインミュージアムを制作し、下記のテーマを公開した。

- ・「アンネとまちよと希望のバラ」（イベント参加者に限定公開中）
- ・「ヤーノシュの物語」
- ・「若者対話：歴史を知るってどういうこと？」

2 書籍・資料などの収集及び提供事業

関連図書と映像については、インターネット図書館「ブクログ」(<http://booklog.jp/users/therc>)を利用して情報提供を行った。登録数は1,428冊。

3 講演会、セミナー等の開催事業

3-1. 訪問授業・講演会

全国の小・中学校、大学、自治体より依頼を受けて合計55回実施した。

1	2021/4/29	Florida	地域団体	ハンナのかばん
2	2021/5/3	The Rashi School	小学校	ハンナのかばん
3	2021/5/27	神戸学院大学	大学	社会防災の基礎Ⅰ
4	2021/5/27	名古屋外国語大学	大学	アウシュヴィッツからの問い
5	2021/6/7	東邦大学	大学	アウシュヴィッツからの問い
6	2021/7/15	東京純心女子高校	高校	ハンナのかばん
7	2021/7/30	愛知教育大学	大学	アウシュヴィッツからの問い
8	2021/8/4	名古屋アライビングリッシュスクール小学校	地域団体	ハンナのかばん
9	2021/8/4	名古屋アライビングリッシュスクール幼稚園	地域団体	ハンナのかばん
10	2021/8/6	愛知教育大学	大学	アウシュヴィッツからの問い
11	2021/10/5	春日台中学校	中学校	訪問授業
12	2021/10/10	三多摩平和交流会	地域団体	オンライン歴史さんぽ～ベルリン編
13	2021/10/19	フランクフルト日本人国際学校	小学校	教員研修・問いづくりワークショップ
14	2021/10/26	田園調布雙葉小学校	小学校	アンネ・フランク
15	2021/11/7	くにたち図書館	自治体	ハンナのかばん
16	2021/11/9	筑波大学	大学	大学院人間総合科学学術院 教育学学位プログラム
17	2021/11/11	北区立田端小学校6年生	小学校	杉原千畝と日本にやってきた難民たち
18	2021/11/11	北区立田端小学校5年生	小学校	ハンナのかばん
19	2021/11/11	名古屋外国語大学	大学	アウシュヴィッツからの問い
20	2021/11/16	上平公民館	自治体	アンネ・フランクの足跡を訪ねる～アムステルダム編
21	2021/11/17	東京女学館	中学校	ハンナのかばん
22	2021/11/24	千代田区役所	自治体	ドラ・グリーンバーグの物語 日本にやってきた難民たち
23	2021/11/27	調布市東部公民館	自治体	ハンナのかばん
24	2021/12/1	厚木市立玉川小学校	小学校	ハンナのかばん
25	2021/12/11	文京区立音羽中学校	中学校	ハンナのかばん

26	2021/12/13	セントヨゼフ女子学園 2年生	中学校	ハンナのかばん
27	2021/12/14	セントヨゼフ女子学園 3年生	中学校	アウシュヴィッツからの問い
28	2021/12/17	中央区立銀座中学校	中学校	ハンナのかばん
29	2022/1/12	明治学院高校	高校	ハンナのかばん
30	2022/1/17	聖心女子学院	中学校	ハンナのかばん
31	2022/1/20	大和市立中央林間小学校	小学校	ハンナのかばん
32	2022/1/22	晁華学園	中学校	ハンナのかばん
33	2022/1/27	ドイツ連邦政治教育センター	海外	ハンナのかばん
34	2022/2/2	セントヨゼフ女子学園教員研修	中学校	ホロコーストの教育者たち～哲学対話ワークショップ
35	2022/2/12	東京女学館	中学校	「アンネ・フランクと旅する日記」試写&ワークショップ
36	2022/2/14	光塩女子学院	小学校	ハンナのかばん
37	2022/2/15	YMCA せとうち	地域団体	人権教育ワークショップ～デンマークのユダヤ人救出
38	2022/2/22	座間市立相模野小学校	小学校	ハンナのかばん
39	2022/2/22	綾瀬市立北の台中学校	中学校	ハンナのかばん
40	2022/2/26	清瀬第三小学校 5年生	小学校	ハンナのかばん
41	2022/2/26	清瀬第三小学校 6年生	小学校	ドラ・グリーンバーグの物語 日本にやってきた難民たち
42	2022/3/2	横浜市立緑が丘中学校	中学校	ハンナのかばん
43	2022/3/3	北海道教育大学	大学	オンライン版ポーランドスタディツアー①
44	2022/3/4	北海道教育大学	大学	オンライン版ポーランドスタディツアー②
45	2022/3/7	世田谷区立梅丘中学校	中学校	ハンナのかばん
46	2022/3/7	北海道教育大学	大学	オンライン版ポーランドスタディツアー③
47	2022/3/9	江東区立辰巳中学校	中学校	ハンナのかばん
48	2022/3/11	練馬区立開進第三中学校	中学校	ハンナのかばん
49	2022/3/14	綾瀬市立城山中学校	中学校	ハンナのかばん
50	2022/3/16	鷗友学園	中学校	ハンナのかばん
51	2022/3/18	大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎	大学	ハンナのかばん
52	2022/3/22	蕨市教育委員会	自治体	ドラ・グリーンバーグの物語 日本にやってきた難民たち
53	2022/3/23	横浜市立霧が丘中学校	中学校	ハンナのかばん

3-2. NPO の自主事業として開催

3-2-1 参加型ブックトーク『ファシズムの教室 なぜ集団は暴走するのか』【大学生対象】

開催日時	2021/4/17(土)・18(日)
内容	一冊の本を分担して読み対話する参加型の読書会。課題図書は『ファシズムの教室 なぜ集団は暴走するのか』(田野大輔著、大月書店刊)。
会場	オンライン
参加費	無料
対象／参加人数	17日:大学生14名、18日:一般15名、合計29名
参加者アンケートより	<p>▶いろいろな角度から話がきけてよかったです。問いが、本の中に留まらず、現実の疑問の方に繋がっていった気がしました。(大学生)</p> <p>▶もっと話したいという気持ちになりました。(大学生)</p> <p>▶とても緊張してしまいましたが、参加者の皆様が話を聞き合い、その都度意見を聞いてくださったことによって、楽しく参加できました。(大学生)</p> <p>▶グループディスカッションでファシズムの危険性から集団行動の中でどこがその境界線になるのか本書を超越した具体的な話し合いが非常に有益でした。グループでは、自由な話し合いの場の創設と自由な意見交換による選択が担保されることが一つの境界線を作るということで一応落ち着いた。また演劇をされている方々が参加されて、子供がロールプレイに参加することによる効用だけでなく被害の可能性も具体的に伺って、アクティブラーニングの素材の吟味に有益だった。(一般)</p> <p>▶私は良心は受動的に育まれるものではなく、能動的に育てていくものだと思います。だから、考えさせられる物語や、内容が綺麗なものばかりではなく、年齢に合わせて少し悲しい話、現実の話をいろいろ知ることが育むきっかけを与えるのがいいと思います。私がこのプログラムに参加した理由の根底にあるのは正しいものは具体的にわからないけれど、きっとあって、少しでもそれに近づきたいという思いです。だからどんな人間になりたいかについて、ゆっくり大人とまた同世代と対話することも良心を育むことにつながると思います。(一般)</p>

3-2-2 問いづくり(QFT)ワークショップ「アウシュヴィッツからの問い」

開催日時	2021/4/24(土)20:00 - 22:30
内容	前年度からの継続で実施。問いづくり(QFT、Question Formulation Technique)という手法を取り入れた人権・平和教育のプログラムを教育関係者向けに実施。ホロコーストの歴史を切り取った1枚の写真を教材にして、①質問をつくる ②質問を分類する ③質問を変換する ④質問を選ぶという4つのプロセスを通して、発散思考、収束思考、メタ認知思考という3つの思考力を育むことをねらいとしている。(参考図書”Make Just One Change: Teach Students to Ask Their Own Questions” Dan Rothstein 他著、『たった一つを変えるだけークラスも教師も自立する「質問づくり」』ダン・ロスステイン他著、新評論刊)
会場	オンライン
参加費	1,500円 (3/19に初参加の方は無料)
対象／参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/8名

3-2-3 ハンナ・ブレイディ生誕 90 年記念オンライントーク「ララ・ハンナの宝物」

開催日時	2021/5/16(日)10:00 – 12:00
内容	Kokoro の教材「ハンナのかばん」の主人公ハンナ・ブレイディの生誕 90 年の節目に、ハンナの姪にあたるララ・ハンナ・ブレイディさんに、戦前・戦中から残る遺品を紹介していただきながら、家族の歴史について講演していただいた。第二部では、2003 年まで活動していた子どもボランティアグループ「小さなつばさ」卒業生たちとの対話を行い、国内外から 370 名を超える参加者を迎えた。
会場	オンライン
対象／参加人数	どなたでも／376 名
参加費	無料、寄附チケットあり
参加者アンケートより	<p>▶若い世代の人と繋がることで、私たち世代がやり残したことがわかりました。(50 代)</p> <p>▶過去と現在が繋がっていく、その瞬間に立ち会うことの凄さを、本日皆さんのお話を聞いて、感じることができました。家族とシェアさせていただきます。(20 代)</p> <p>▶質問の時間が多く取られていて参加者もセミナーにコミットできる点がとても良いと思った。また、SW の方々との議論もとても興味深く、コロナ禍でも「学び」に対して希望を持つことができた良い機会であったと感じる。(20 代)</p> <p>▶ホロコースト生還者のジョージさんが亡くなり、『ハンナのかばん』の物語を語り継ぐことが難しくなると思われましたが、ララ・ハンナさんがしっかりと語り継ぐ意志を示されたことに感動しました。聡明でおおらかでお人柄が伝わってきました。また、後半の「小さなつばさ」の OB・OG の皆さんが登場されて、若い世代にも人権や平和を守る大切さがしっかりと根づいており、素晴らしいと思いました。彼らのスーツケースへの疑問が、『ハンナのかばん』の物語を底辺で支える原動力となったと思います。(50 代)</p> <p>▶さまざまな偶然・奇跡の重なりが、まるでハンナの物語を語り継いでいくために全て「必然」であるような気もして、不思議な感覚になりました。そして、これはララさんや石岡さんに限らず、私たちがこれから託されたもの・記憶をどうやって次の世代に繋げていけるのか、みんなで考えていかなければいけない話だなと強く感じました。また全体的に、ララさんの熱い想いと、そこに石岡さんのエネルギーも重なって、二人はすごくいいコンビだな～と思いました。また、今回大きくなった「小さなつばさ」の方々を拝見できたのも、とても良かったです。私は 2001 年当時小学 3 年生だったのでちょうど最年少の方ぐらいの年齢に近いのですが、同じ年代を生きている人たちがこんな特別な体験をされたことにとっても羨ましさを感じるとともに、私自身もこの頃に出会ったこと触れたことが今の生き方の根っこの部分にあることに改めて気がつき、自分の経験を重ね合わせて考えていました。(20 代)</p> <p>▶東京新聞で講演会を知りました。ハンナの家族の写真やいろんなものが現存して、後世に伝えられている事に驚きです。靴も残って日本にあって、そこから小さな翼の活動に繋がる。これからの活動応援していきたいと思います。(50 代)</p> <p>▶初めてこちらの NPO のことを知りましたが、活動に感銘を受けました。コロナ禍で思考が内向きになりがちな昨今でしたが、こうして世界とつながることができることが実感できて貴重な機会となりました。自分にできることは何かと考えていくと無力感に襲われることも多いですが、小さなつばさの方たちのお話から、足元の小さなことをやること、考えることをやめないこと、ということに勇気をもらえました。(40 代)</p>

	<p>▶日本が命や民主主義を軽視する状態にあつという間に変わっていく恐怖の中で、こういう時間を持てた事は希望になります。声をあげ希望をつなげていきたいです。(60代)</p> <p>▶ハンナさんにお母さんが送ったペンダントなどを、ZOOM越しではあるものの実物を見ることができたのが一番感動しました。第二部では、当時今の私と同じくらい、または今の私よりも小さい年齢だった方が実際にホロコーストと向き合っていたということに感銘を受けました。(中略)この問題について学校での講演を聞いたときよりもさらに深く知ることができました。本当に参加してよかったと思っています。(10代)</p> <p>▶大変有意義な2時間でした。二度と同じ過ちを繰り返さない、そのために歴史があるんじゃないかな。これからも歴史を学んで、苦しい環境の中で生活していた方々に思いを寄せながら、今の平和の日々を大切にしていきたいと思います。(20代)</p> <p>▶3年前にアウシュヴィッツを訪れて以来、kokoroさんの講演会などに参加させて頂いています。(中略)「小さなつばさ」のメンバーの方たちの「当時は普通のこととして受け入れていた」という言葉、やはり子供の頃の体験というものはとても大切だと考えさせられました。(40代)</p> <p>▶ジョージさんたちが作っていた「Vedem」という雑誌や、ジョージさんの日記、ハンナさんが残した絵を見て、心が折れそうな状況でも表現することを辞めずにいることが、自分が自分であるための最後の方法なのかもしれないと感じました。(20代)</p> <p>▶こころさんの積み重ねてきていらした活動すばらしいことと思いました。コロナ禍のオンラインの催しのおかげで知ることができました。コロナ禍ではリアルな触れ合いや働きかけはむずかしいですが、このように時間と距離の制限を超えて人がつながることができると強みにかえて平和のためにできることがひろがるとよいなと思います。(60代)</p>
--	--

3-2-4 第19期総会&『「わたし」と「れきし」展』実行委員会の大学生トークセッション

開催日時	2021/6/5(土)19:15 - 21:30
内容	コロナ禍でスタートした Kokoro のオンラインイベントに参加を重ねてくれた大学生たちをゲストにお招きして、夏に開催する『「わたし」と「れきし」展～ホロコーストの記憶と今を生きる私たち～』について語っていただいた。
会場	オンライン
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/50名
参加費	無料、「わたし」と「れきし」展実行委員会への寄附チケットあり
参加者アンケートより	<p>▶自由に素直にご自分たちの想いや考えを語り合う学生さん達に好感を持ちました。「わたし」と「れきし」展の公開が待ち遠しいです。応援しています！(60代)</p> <p>▶初めて参加しました。とても素敵な取り組みだと思いました。特に、学生のみなさんの考えや取り組みが素敵だと感じました。とても鋭い視点をお持ちで、かつ、熱量がすごいと思いました。応援しています。(20代)</p> <p>▶会全体がとても楽しかったです！Kokoro の昨年度一年間の活動を振り返ると、特にオンライン事業でものすごい発展を遂げたのではないのでしょうか。(中略)「わたし」と「れきし」展についての大学生のトークも、とてもおもしろかったです。ただの歴史展示ではないいろいろなクリエイティブなアイデアが含まれていて、すごく感動しました！！絶対に一人で考えていたら生まれないような、対話があったからこそ生まれたんだろうなというアイデアの一つひとつに、どんな展示になるか今から楽しみです！(20代)</p>

3-2-5 参加型ブックトーク『アンネ・フランク その15年の生涯』

開催日時	2021/6/12(土)14:00 - 16:15、19:00 - 21:00
内容	一冊の本を読んで対話する参加型のブックトーク。アンネ・フランクの誕生日に、課題図書は15歳で広島で被爆した黒川万千代さんが書いた『アンネ・フランク その15年の生涯』を取り上げた。
会場	オンライン
参加費	500円、高校生無料
対象/参加人数	午後の回：どなたでも、夜の回：高校生、合計10人
参加者アンケートより	<p>▶1冊の本を通して皆さんの感想や、自分の感想を、受け取ったり、発信したりすることが出来て本当に良かったです！もっとたくさん知りたいなと思ったし、このような忘れてはいけない歴史を積極的に知ろうと思いました。参加して本当に良かったです！</p> <p>▶楽しかったです。同じ本を同時に読むことで見えてくるものがあるし、疑問を共有することができて興味深かったです。今の私たちと同一年のアンネ、彼女が感じていたことから、アンネの周りの世界が見えてよかったです。</p> <p>▶「予習はいらない」に気軽に申し込みました。一冊の本をしっかり勉強したという感じです。読む、まとめる、発表する、問いを作る、と結構難易度が高いと思いました。読むのに時間がかかり要約に焦りましたが、皆で協力して読んだという達成感がありました。参加者の持っているもの(背景)の違いでいろいろな考えや疑問点があり、一人で読んで問いを作るより色々な角度で考えることができたと思います。</p>

3-2-6 問いづくり(QFT)ワークショップ「アウシュヴィッツからの問い」

開催日時	2021/6/26(土)20:00 - 22:30
内容	3-2-2 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/6名

3-2-7 オンライン歴史さんぽ～アムステルダム編

開催日時	2021/7/2(金)20:00 - 21:30
内容	前年度より開催4回目。アムステルダムの街に刻まれている、第二次世界大戦時の記憶をたどるオンライン街歩き。アンネ・フランクの足跡だけでなく、オランダ市民の抵抗運動(レジスタンス)の現場、そして日本と関わりの深い歴史も紹介。
会場	オンライン zoom ミーティング
参加費	Kokoro 会員 1,000円、一般の皆様 1,500円、学生 500円
対象/参加人数	興味のある方はどなたでも/13名
参加者アンケートより	<p>▶工夫されとても分かりやすいツアーでした。アンネの家を以前訪れてから、オランダのユダヤの方々が多く被害に遭われた事を知り、もっと学びたいと思っていました。また、地図を見ながら旅の計画を立てる楽しみ、久しぶりでワクワクしました！</p> <p>▶こういう形のイベントに参加するのは初めてでしたが、とても有意義な時間を過ごすことが出来とても楽しかったです。もっともっとお話を聞きたかったです。あっという間の1時間半でした。アンネのこと、ホロコーストのこと、もっと深く知りたいのでこれからも Kokoro さんのイベントに参加したいと思います。</p>

3-2-8 オンライン歴史さんぽ～ワルシャワ編

開催日時	2021/7/10(土)20:00 – 21:30
内容	前年度より開催 2 回目。ポーランドの首都ワルシャワの街をオンラインでめぐりながら、第二次世界大戦の史跡をたどるプログラム。ショパンやコペルニクス、キュリー夫人など世界的な著名人を輩出し、日本でも馴染みの深いポーランドだが、長く列強に翻弄された苦難の歴史が街中に刻まれている姿を紹介する。NPO 法人ホロコースト教育資料センターのスタディツアーで訪問している世界遺産「リングェルブルム・アーカイブ」や記念碑を中心に紹介。
参加費	Kokoro 会員 1,000 円、一般の皆様 1,500 円、学生 500 円
対象/参加人数	興味のある方はどなたでも/22 名
参加者アンケートより	<p>▶ワルシャワに 8 ヶ月ほど留学し住んでいたのにも関わらず、知らないことが多かったです。どうしても行きたくて仕方なくなりました。ワクワクしました。</p> <p>▶初めて参加しました。とても面白かったです。クラクフへは行ったことがあるのですが、ワルシャワは行ったことがないのでとても興味深かったです。翻訳者でホロコースト関連のものをよく訳します。大変勉強になりました。コロナが終息したら、ぜひワルシャワへ行きたいと思いました。このたびはありがとうございました。</p> <p>▶ホロコーストに興味のある友人が周りに居ないので、参加された皆さんと時間を共有出来たこと、嬉しかったです。ゲッター内の映像や歴史家の方のお話など、初めて知ることばかりで本当に勉強になりました。</p>

3-2-9 「記憶の文化」と私たちの挑戦～大学生トークセッション

開催日時	2021/7/24(土)20:00 – 22:00
内容	「わたし」と「れきし」展実行委員会 (We⇄Me) (3-2-4 参照)の奥川稀理さんと西山花音さんの司会進行で、ドイツのベルリン自由大学修士課程在籍の瀧元深祈さんをゲストに迎えた。第一部では、ベルリンの記憶の場を紹介していただきながら、第二次世界大戦時のホロコーストやナチズムの歴史についてドイツではどのような議論が行われているのか、様々な取り組みの中で若者がどのように関わっているのか等を、実際にベルリンで生活している学生の目線から瀧元さんにお話をいただいた。第二部は三人の学生によるトークセッションを行った。
会場	オンライン zoom ミーティング
登壇者	<p>▶司会進行 「わたし」と「れきし」展実行委員会 奥川稀理 東京学芸大学 2 年 西山花音 埼玉大学 4 年</p> <p>▶ゲスト 瀧元深祈 ベルリン自由大学の修士課程「パブリック・ヒストリー」コース在籍</p>
参加費	一般の皆様 1,000 円 「わたし」と「れきし」展にご寄付いただいた皆様 無料 学生 無料
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/59 名
参加者アンケートより	<p>▶同年代の方々がこのようにイベントを開催されること、また現地に住んでいらっしゃる方の目線で、ホロコーストについて知ることができ、とても良い機会だった。(20 代)</p> <p>▶ホロコーストの話は私のいる環境では深くまで聞く機会がないので、貴重な経験になりました。パブリックヒストリーのものの見方は、私がしたかった歴史との向き合い方に合っていると感じました。(10 代)</p>

	<p>▶もともとベルリンのお話に興味があったのですが「歴史展」素晴らしいですね！それぞれの歴史展が広がっていくと良いなあと思いました。(60代)</p> <p>▶ベルリンの記憶の文化が市民のイニシアチブで始まり、それを市がバックアップして、様々な形でなされていることがわかりました。早くベルリンを訪ねたいものです。若者たちの姿勢にも感動しました。(60代)</p> <p>▶歴史としてグローバルに捉えるのではなく自分自身だったらどうしたか、と自分と向き合って考えた事に共感出来ました。「わたし」と「れきし」展に是非行きたい。(60代)</p> <p>▶2時間は長いと思っていましたが、随時に問いもあり、素晴らしい内容でした。(30代)</p> <p>▶大学で非常勤講師をしております。ヨーロッパ関連の文化事情などで、ホロコースト問題や第二次世界大戦(日本の犯したことについても)について取り上げる際、一定層の「ホロコースト否定論者」や「歴史修正主義者」がいます。ただ「詳しくは知らなかった」という学生も多く、昨日のトークセッションでは、学生の皆さんの真剣な取り組みを知り、講義でも紹介させていただきたいと思いました。(40代)</p> <p>▶「パブリック・ヒストリー」「パブリック・ヒストリアン」という、日本ではまだ馴染みの薄い視点ですが、とても興味を持ちました。「パブリック」という視点は、遠い時代・場所の歴史的事実を、自分の立場に引き寄せて考えられるだけでなく、現在進行中の問題(国際関係問題や国内問題問わず)を考えるのにも、とても重要な視点だと思いました。わたしとれきし展を企画された大学生の皆さん、本当にすばらしいと思いました。自分自身にも歴史にも真摯に向き合っているのが伝わってきました。(40代)</p>
--	---

3-2-10 教育関係者向けドイツスタディツアー [2021年夏オンライン版・四日間]

開催日時	2021/8/13(金)、14(土)、21(土)、22(日)
内容	<p>ナチズムの歴史を展示するドイツの博物館や国際協力 NGO と繋いで、人権・平和教育を考える4日間のオンライン版スタディツアーを教育関係者向けに開催した。</p> <p>1日目 8/13(金) 20:00~22:30 オリエンテーション & 事前学習の問いづくり</p> <p>2日目 8/14(土) 20:00~22:00 テロのトポグラフィ</p> <p>3日目 8/21(土) 20:00~22:00 ドイツ抵抗記念館</p> <p>4日目 8/22(日) 16:00~18:00 ドイツ国際平和村</p>
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	4日間 9,500円
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/38名
参加者アンケートより	<p>▶バーチャルツアー的な物には懐疑的でしたが、今回のプログラムで完全に認識が変わりました。こんな世界の現状ですが、まだまだ私たちには可能性がある。そう信じて大人が進み、そして若い人たち~子供たちと共に分かち合いたい。そう感じさせるプログラムでした。(50代)</p> <p>▶4日間がバラバラの学びではなく「問いづくり」を軸にして、つながっていたように思います。私は、きっと参加者の皆さんの中では事前知識が大変少なく、これまで自分で積み重ねてきた学びもほとんどなかったのですが、そんな私でもみなさんと一緒の場で学べたのは「問いづくり」が大きかったのだと思います。安心して参加できました。(20代)</p>

	<p>▶社会人になって数年目経ち、新しい何かを学ぶ機会が減り、淡々と仕事をする毎日になってしまっていたこともあり、とても刺激的な4日間でした。ただのツアーではなく、学びの要素が盛り沢山で色々な思いが頭を巡り考え込んでしまい、なかなか寝つけない日もありました。コロナをきっかけに、人同士の対立が増えたり、コロナやワクチンへの価値観もそれぞれで、バランスが崩れているような感じがして、これをきっかけに大きな争いが起きる可能性はあるのではと感じています。そのようなタイミングで4日間学べたことを嬉しく思うし、頭で考え続けるだけではなくて、自分の体を使って行動に移していきたいです。(20代)</p> <p>▶それぞれの施設の展示内容やコンセプトを詳しく教えていただいたので、日本との違いも感じられたり、スタッフの方の気概も感じました。ホロコーストは過去のことでなく、そのような状況に直面したら自分はどのような判断を下すのか、誰もが考え続けていく必要があると思います。そのためにも、過去をしっかり理解し、自分に問い続ける機会は重要だと思いました。(40代)</p> <p>▶学びが進むにつれて、これまでの断片的な情報が結びつき輪郭がはっきりしてくるという不思議な感覚を覚えました。ヨーロッパ地図と年表も何十年か振りに眺めました。その意味で日程の組み方も私にはありがたかったです。掲示板での皆さんからの情報は大変有用でしたし、感想や問いのシェアも、新たな気づきにつながりました。いろんな制限がある中、こうして視野を広げられたことを嬉しく思います。何より、ツアーの前後で同じ映像や文章から自分が感じとれる深度の違いに驚き、感動しています。(40代)</p> <p>▶世界の平和を実現するために教育現場でできることが多くあると思っています。今回、スタディツアーに参加させていただき多くのヒントとたくさんの可能性を見出すことができました。(40代)</p>
--	--

3-2-11 オンライントーク「歴史ガイドという仕事 ポーランドとドイツの教育の現場から」

開催日時	2021/8/27(金)20:00 – 22:00
内容	ポーランドのアウシュヴィッツ博物館ガイド・中谷剛さんとドイツのザクセンハウゼン強制収容所記念館ガイド・中村美耶さんをお迎えして、歴史の継承をめぐるお二人の体験や考えることを中心に対談していただいた。
会場	オンライン zoom ミーティング
登壇者	ゲスト 中谷剛
参加費	Kokoro 会員 1,000 円、一般の皆様 1,500 円、学生 500 円
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/128 名
参加者アンケートより	<p>▶歴史を伝える意味を自分なりに深く掘り下げる機会となった。正解のない問いかけに対して、しっかりと悩み、思いを巡らす力を身につけていきたい。(50代)</p> <p>▶多様な考えを持つ人をどのような言葉で案内すればいいのか、お二人の歴史の「伝え方」が興味深かったです。なぜあのような悲劇が起こったか、「なぜ」についてこれが正しいという答えはないかもしれないが、自分が考えることはできる。それを深めていくことこそこれからわれわれができることなのかもしれませんね。(60代)</p> <p>▶お二人が考えるホロコーストが起きた理由に関する質問が印象に残っています。私もホロコーストについて、本や資料館、映画から知識を得るにつれなぜこんなことが起きたのだろうということを考えていました。お二人も仰られた様に、一つではないと思うし、偶然起きたことでもないし、はっきりと言えることでもないと思っています。当時もし自分だったら何をしたかを考えることで、答えに近づくのではないかとこの中谷さんからの問</p>

	<p>いがあり、答えは「わからない」ことだけど、様々な側面について知り、考え続けることが大切なのではないかと感じました。過去に起きたことであっても、新たな資料を解析して、歴史の研究が今も進んでいるということを知りませんでした。そして、ガイドの方も同じことを繰り返し伝えるのではなく、新たに勉強し自分が伝えていることを思い返したり、勉強会を開いて伝えることを考え直されていることを知りました。(20代)</p> <p>▶自分の仕事にも繋がるヒント・気づきをいただきました。(30代)</p> <p>▶二人とも共通しておっしゃっていた、「ガイドを長くしていると、いつの間にか歴史を「誇張」「脚色」または(ある意味で)「歪曲」してしまっている自分がある。」という点は、私も人に歴史を説明する機会があったときに全く同じことを感じていたので、それぞれ！と、とても共感できました。でも、「歴史を伝える」という仕事は、ただ客観的な事実を説明するのではなく、そこに「なぜこれを伝えたいのか」という自分の主観が必ず入り、むしろその「思い、意図」が最も大事になってくるので、その辺のバランスをいかにとるかというところが本当に難しいなあと感じました。(20代)</p> <p>▶私自身もホロコーストではありませんが、ヒロシマを後世に伝えていく者として、中村さんがおっしゃったように私が伝える意味を大切に、私だからこそ伝えられることを発信していこうと思いました。実際に体験した身ではないからこそ、伝えることを躊躇ってしまう気持ちがあるのですが、このことを大切にしていきたいと思います。(10代)</p>
--	---

3-2-12 高校生対象「ホロコースト記念館オンラインツアー&ワークショップ」

開催日時	2021/8/28(土)10:00 - 15:00
内容	<p>インターン 2 期生の企画・運営による高校生対象のイベントを開催。広島県福山市のホロコースト記念館のオンラインツアーとワークショップを組み合わせた夏休みの特別プログラムとして実施した。</p> <p>【プログラム】</p> <p>10:00~10:30 アイスブレイクを兼ねたワークショップ</p> <p>10:45~12:15 ホロコースト記念館オンラインツアー</p> <p>13:15~15:00 問いづくりと対話</p>
会場	オンライン zoom ミーティング
企画／運営	Kokoro インターン 慶應義塾大学・遠藤彩華／東京大学・安田紳太郎／一橋大学・土方薫
参加費	無料
対象／参加人数	高校生/34 名
参加者アンケートより	<p>▶ディスカッションが得意な方ではないのですが、大学生の方がサポートしてくださりいつもより積極的に発言できたかなと思います！(高校2年)</p> <p>▶自分とは違った視点を持っている同年代の方々と意見交換できて夏休みの中で最もよい時間を過ごせたように感じています。まだまだ知らないことだらけで普段の学習も大事だけれどアウトプットしたり答えのない問いをみんなで深めていくことの楽しさを改めて感じました。初対面の人とこれほど長い時間ディスカッションをするのは初めての経験でした。しかし緊張することもなく、自分の意見とみんなの意見を共有できることが本当にたのしかったです！(高校2年)</p> <p>▶有料でもいいのではないかとというくらい知識が得られた。また他の参加者の方と意見を出し合うことで、より視野が広く、深く考えられた。(高校1年)</p>

	<p>▶同年代の人とホロコーストと現在起きていることとの関連性を見つけ、話し合うのはとても興味深かった。自分では気づかなかった新しい視点も知ることができた。(高校1年)</p> <p>▶他の高校の生徒と意見を交換する機会がなかったので、今回のイベントで多くの刺激を貰うことができ、嬉しかった。今回出た考えなどを日々の学習に生かしつつ、将来国際協力に関われるように努力していきたい。(高校2年)</p> <p>▶政治に関心なことがどれほど怖いことか再認識した。行動に移せないにしろ、とにかく知ろうと思った。私が今一番興味ある社会問題は難民問題だ。(高校2年)</p>
--	--

3-2-13 大学生ヨーロッパピーススタディ～オンライン3日間(9/15・16・17)

開催日時	2021/9/15(水)・16(水)・17(金)
内容	<p>大学生協との共催で、オンライン版のヨーロッパスタディツアーを実施した。海外渡航がまだ困難な中で、ポーランドとドイツの史跡とライブ中継で繋ぎ、ゲストを招いて学ぶと同時に、大学や学年の枠を越えて出会い対話する場として全国の大学生を対象に提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1日目 9月15日(水) 16:00～18:30 オリエンテーション & 事前学習「アウシュヴィッツからの問い」 ●2日目 9月16日(木) 17:00～19:00 アウシュヴィッツ博物館ガイド・中谷剛さんインタビュー ●3日目 9月17日(金) 17:00～19:30 ドイツ抵抗記念館
会場	オンライン zoom ミーティング
共催	大学生協
対象/参加人数	大学生/17名
参加者アンケートより	<p>▶この3日間は自分が想像していた以上に充実したものでした！さまざまな考えをもった人たちと出会い、私の知らない視点からのお話を聞き、そこからさらに問いづくりを通して深掘りができたと思います。</p> <p>▶刺激の連続でした。歴史という言葉から、数え切れないほどの人の人生をイメージするようになりました。歴史を勉強する「重み」のようなものを得ました。</p> <p>▶同じような過ちを繰り返さぬために、次の時代を担う私たちに何ができるのか。その行動を考える第一歩になったと思います。</p> <p>▶初めは不安でしたが、思ったより他のメンバーと話せて安心しました。オンラインという形式なので気軽に参加し、学ぶことができました。またコロナが落ち着いた後でもこの形式のプログラムがあると嬉しいですね。</p> <p>▶22歳というこのタイミングで学ぶことができよかったですと思っています。今の日本でも選挙率が低くなったり、戦争を経験した人の高齢化も進んでおり、戦争が絶対に起きない、ホロコーストのようなできごとが絶対に起きないとはいえない状況だと思っています。(当時のドイツ国民もこういうことが起こるとは思ってもみなかったと思っています) ホロコーストには障害者や LGBTQ、民主主義などさまざまな諸問題が積み重なって行ったことだと思っています。今回学んだこと、交流をして深めたことをぜひ行動に移していきたいと思いました。学び方という点においては、自分で問いを作って疑問を持ち、講師の方に質問するという流れがとてもいいと思いました。私はすでに卒論を書いたり、進路について考えたりしていますが、大学生活だけではなくこれから社会で生きていく上で、問いを作り、行動するという事はとても大事なことだと痛感しています。</p>

3-2-14 ホロコースト史を教材にした人権・平和教育ワークショップ

開催日時	2021/9/25(土)20:00 - 20:00
内容	ホロコースト史を教材にしたアクティブラーニングの実践講座として高校の先生方を対象に実施した。内容は3-2-2参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	無料
対象/参加人数	高校教員/8名

3-2-15 ドイツ発・若者歴史対話ワークショップ

開催日時	2021/10/16(土)20:00 -
内容	<p>ドイツ外務省および連邦政治教育センター(民主主義についての教育を行う政府の独立機関)より委託を受け、若者を対象にした国際歴史フェスティバル histoCON の日本パートナー団体として参加した。「過去をふりかえり未来を展望しよう」というスローガンのもと、世界9カ国の若者たちが「1945年を境に私達の世界はどう変わったか/変わっていないか」という問いを探究した。</p> <p>①10/16(土)18:00 - 21:00 対話ワークショップ ゲート・インスティトゥート東京に、16名の大学生及び20代の若者が参加</p> <p>②10/17(日)16:30 - 19:00 対話ワークショップ 遠方で東京会場に参加できなかった若者5名を対象に①を実施</p> <p>③10/21(木)20:00 - 22:00 報告&ゲストトーク オンライン 49名 ルポライターの室田元美さん、脚本家のいずみ凜さん、フランクフルトより岡裕人さん、アウシュヴィッツ博物館より中谷剛さんをゲスト及びコメンテーターにお迎えし、①と②の若者たちによる対話ワークショップの成果の発表を行った。発表者および一般参加者を含め計85名が参加した。</p> <p>④10/22(金)18:00 - 歴史フェスティバル ベルリン発の国際歴史フェスティバルがオンラインで開催され、ゲート・インスティトゥート東京に15名が参加した。①～③の成果をライブ中継で発表した。</p>
会場	対面及びオンライン
参加費	無料
対象/参加人数	大学生から一般/85名
参加者アンケートより	<p>▶第二次世界大戦の歴史を加害・被害関係なく記憶できたらと思います。直接第二次世界大戦と関わっていない私たちだからこそ、俯瞰的、多角的、客観的にこの歴史と向き合えると思います。「日本人」という国籍を超えて、「わたし」として、歴史に向き合い、想像力を働かせたいです。</p> <p>▶詳細な状況や知識の完璧な把握は、どれほど研究が進んでもなかなか不可能に近いのかもしれないなんて思います。でも、思い出して想像して共感して今を考え行動する力さえあれば、記憶はできるものだと思います。暗記ではなく記憶なのですから、記憶とは生きている限り更新され、刻み続けられるものです。そして記憶とは、一人の記憶だけでなく、良くも悪くも集団の記憶にもなりうるものです。</p> <p>▶一人一人が他者を想うこと、共感を試みること、現実から目を逸らさないこと、そして行動すること。私のグループで考えた手紙広場を作るという案を通して、一人一人が以上のようなことができるといいなと思います。歴史の延長線上に今を生きる私がいることを忘れないために、100年前を生きる一人の人から今を生きる私へ、そして100年後を生き</p>

	<p>る一人の人へ。"</p> <p>▶今回はこのような素敵な機会を作ってくださいありがとうございました。歴史について対話する意義を考えられただけではなく、対面でお話しする価値や、身体で伝えられる力についても知る機会になりました。</p> <p>▶私自身が平和を作っていく主体者として行動していけるようにしたいと思いました。</p>
--	--

3-2-16 教育関係者向けポーランドスタディツアー [2021年冬オンライン版・3日間]

開催日時	2021/12/3(金)20:00 - 21:45
内容	<p>ポーランドの歴史と文化に触れるオンライン版のスタディツアーを下記のプログラムで実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1日目 12月3日(金) 20:00~22:00 「ポーランドを知る～第二次世界大戦の歴史を中心に」 津田塾大学・吉岡潤教授 ●2日目 12月11日(土) 20:00~22:00 「クラクフ街歩き」ガイド・日本語教師 アンナ・チャスカ ●3日目 12月17日(金) 20:00~22:00 ポーランドの国際協力 NGO「平和ラボ」代表・カロール・ウィルチンスキ
会場	オンライン zoom ミーティング
参加費	早割・3日間 5,600円、3日間 6,100円、1日参加 2,300円
対象/参加人数	高校生以上、興味のある方はどなたでも/42名
参加者アンケートより	<p>▶ヤギェウォ朝から現代までがコンパクトにまとまり、まさに「90分でわかるポーランド史」概説！非常にわかりやすく、大変参考になりました。</p> <p>▶吉岡先生の講義は、テンポ良く分かりやすかった。又参加者の掲示板はありがたいです。この種の試みは、余り利用されませんが、既に自己紹介も複数掲載されており、小生も投稿させて頂きました。</p> <p>▶「国」や「■■人」と一言でいっても、「国家」「民族」「人種」「地域」「伝統・文化」など様々なことが複雑に絡んでいるということ、その複雑性を歴史という軸で整理することの大切さを実感いたしました。</p> <p>▶JCCのインタビュー動画を観ていた時、自分の中にユダヤ人の人たちは自分と違った世界にいる人たちという認識があることに気づき、唖然とし、反省しました。(中略)知らないもの・ことを知ることは時に勇気が必要だと思います。特に社会的に負と認識されているものは尚更です。自分ひとりで踏み込むのは怖くても、このようなスタディツアーでは皆さんと一緒に知ることができるため、そういう怖さを無くしてくれると思います。</p> <p>▶アンナさんの説明は資料を豊富に使った丁寧なガイドで、歴史と文化が融合して現在に至る様子がよく分かりました。最後のボジャーナ先生の歴史の授業のお話や、ユダヤコミュニティセンターの活動も素晴らしかったです。</p> <p>▶Annaさんのバーチャルツアーにはぐんぐん引き込まれました。クラクフのユダヤ人街、と一言では言い表せないほど奥深い様々な側面があることを知ることができました。</p> <p>▶最も弱い立場にいる人たちを大切にする社会を作っていくことは結局自分たちにとって生きやすい社会を作ることにつながるのだと改めて感じた。</p>

3-2-17 ホロコースト史を教材にした人権・平和教育ワークショップ

開催日時	2021/12/27(月)20:00 – 22:00
内容	3-2-14 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	無料
対象/参加人数	高校教員限定/10名
参加者アンケートより	<p>○問いづくりにはどんな効果がある／ないと感じましたか</p> <p>▶物事をただ一方通行で学ぶより、自分ごととして捉えられる、また自分の問いが授業中に活用されて「授業に役買った感」があるため、学ぶ意欲が増す効果があるように感じました。</p> <p>▶今まで「問い」そのものを「問う」ことをしてこなかったので新鮮に感じました。このメソッドは興味深いものです。時間配分なども工夫して取り組んでいこうと思います。</p> <p>▶自ら（主体的に）あるテーマについて関わり、考えていくことが出来るところに効果があると思った。</p> <p>▶「問いづくり」のあり方が大変勉強になりました。特に、その後のシェアリングの時間がさらに思考を促すプロセスになっていて、高度な認知活動だと思いました。私自身、生徒として、頭を使い、深く考えることができました。</p> <p>▶個人的には、授業で生徒に質問を作らせていましたが、ペアワークに留まっていたため、主体性や深い思考力を培う協働学習になるよう全体で一緒に見て考える形で計画したいと思います。</p> <p>▶私たちの中にある「当然」や「あたりまえ」が本当にそうなのか、そしてそれがどうしてそうなっているのか考えるきっかけになる。問いをもつことで見えなかったものを改めて問いを通して可視化し、素通りしてしまっていた物事を意識化することができるという効果がある。</p> <p>○感想</p> <p>▶今の学校教育では学ぶ＝教わるになっているとふと、感じました。そもそも学ぶとは主体的で、自分を教える活動（言い方は変ですが、）であるはずなのに…。</p> <p>▶他の方々からの意見を伺っていると、本質に迫る良質の「問い」が多くありました。これこそが、子どもたちから湧き上がる「問い」なのでしょうね。（中略）私が秀逸だと感じた「問い」は「どうして帰属意識を効率的に高める方法に「他者」を排除する手法がよく用いられ、また成功してしまうのだろうか？」というものです。「用いられる」ことは学校現場でも「スクールカースト」（悔しいですが・・・）発生してしまうように、往々にしてあります。優れていると思ったのは後段の「問い」つまり「成功してしまうのだろうか」です。（中略）貴センターの役割は極めて大きいと感じています。</p> <p>▶私は英語を教えますが、検定教科書には何らかの形で戦争を扱う単元があります。その際、ホロコーストについて触れるのですが、生徒たちは遠い国の出来事として捉えがちなので、どうにか工夫ができないかと Kokoro さんのワークショップに参加させていただきました。これからも生徒の「気づき」と「問い」を大切にしながら、取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>▶問いを持つということは、問いをもたずに一方的に知識を吸収するというを長年してきた日本の教育現場においてはチャレンジなことであり、あらためて問いを通してその問題の本質を考え直す必要があり非常にエネルギーと時間を要する。そのため、問いから生まれる創造力や想像力を楽しむ余裕と、それを支えるモチベーションや根気が必要です。それらの支えは問いづくりのおもしろさと、それらを一緒に共有しようという仲間からもいただけるものだと感じる。</p>

3-2-18 オンライン歴史さんぽ～ワルシャワ編 開催第3回

開催日時	2022/1/7(金)20:00 - 21:30
内容	3-2-8 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	Kokoro 会員 1,000 円、一般の皆様 1,500 円、学生 500 円
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/21 名
参加者アンケートより	<p>▶90 分は長いかな、と思って参加しましたが、あっという間のツアーでした。写真や動画のバランスがよく、何より説明がとても分かりやすくて驚きました。ワルシャワにこんなにも多くの「遺産」が残っているなんて知りませんでした。説明していただいた全ての場所に、今すぐにも訪れたいです。</p> <p>▶普通の観光目線とは違ったワルシャワの歴史さんぽに感銘を受けました。第2次大戦時のユダヤ人の息遣いが聞こえてきそうな膨大な記録の数々、生々しいゲットーの傷跡など一度は実際に赴いて自分のこの目で確かめてみたいものばかりでした。そしてユダヤ人によるワルシャワゲットー蜂起、翌年ポーランド人によるワルシャワ蜂起、などいくつもの悲しい出来事を経験したこの町がいかに再生し、何を訴えているのか、いつかは絶対に訪れたいです。</p> <p>▶ 百聞は一見に如かずを体感したところです。一連のオンライン講座を通じて、まだまだ知らないこと多く、学び続けることは必要であり現在や未来に向けて意味のあることだと感じました。</p>

3-2-19 国連制定ホロコースト国際デー2022 in 東京「ホロコースト否定論～欧米社会はどのように向き合ったか」

開催日時	2022/1/27(木)19:30 - 21:30
経緯	国連は、アウシュヴィッツが解放された1月27日を「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」と定め、加盟国に対して、国や民族、信仰の違いを超えて、この歴史を教育の場で取り上げることと呼びかけている(2005年国連総会決議)。2015年より毎年、この時期に歴史を学び考えるイベントを開催してきた。2022年1月は第8回目として開催した。
内容	学習院女子大学の武井彩佳教授をゲストにお迎えして、「ホロコースト否定論～欧米社会はどのように向き合ったか」と題してご講演いただいた。昨年からパンデミックが広がるなかで、陰謀論や差別、憎しみを煽る言動などと共に、ホロコーストを否認する言説も特にインターネット上に多く存在し、国連をはじめ、世界の国々が危機意識を共有している。ホロコースト否定の実態とは。そして、その問題に欧米社会はどのように向き合ってきたのかを学び、日本の社会も振り返りながら学ぶ機会として実施した。
会場	オンライン zoom ウェビナー
ゲスト講師	学習院女子大学教授 武井彩佳さん
参加費	無料、寄附援チケットあり
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/286 名
参加者アンケートより	<p>▶なぜ歴史修正主義が生まれるのか、とても興味深く拝聴いたしました。一方で、学問的な問題と心の問題は別だということも実感した次第です。私は歴史学を専攻する一人の学生で、歴史修正主義が生まれる背景や法規制を巡る展開について、深く勉強させて頂きました。(20代)</p> <p>▶非常に価値観が広がる内容で、引きこまれました。特に「事実の否定が現実の悲劇を生み出す」というお言葉が印象的で、「歴史とどう向き合うべきか」考えを深めるきっかけとなったと思います。(10代)</p>

	<p>▶裁判や法律の背景にあった本質・問題点をとても分かりやすく話して下さりたいへん勉強になりました。特に、否定論の本質にあるヘイトについては納得できました。いろいろな人がいろいろな主張をされることがありますが、その本質が歴史の議論なのか、それともヘイトなのか、それを見極めることで適切な対応ができるのではないかと思います。また、「常に反省を求められる歴史、批判され続ける歴史」はつらい・・・でもそれを否定せずに向き合い乗り越えていく対話や学びをしていきたいと思いました。(50代)</p> <p>▶日本社会にヘイトが蔓延しており、実質的にそれを規制できていない現状において、非常に考え深い内容でした。特に、歴史を否定することが亡くなった人や傷ついた人をさらに追い込むことになるというお話が印象的でした。それは、まさに今苦しい立場に置かれているマイノリティを攻撃することでもあるし、誰かを排除できる社会の土台を作り上げる行為でもあるように思います。民主主義を揺るがしてはいけないと改めて思いました。(20代)</p> <p>▶今日という日を、どのように過ごせばよいのか、問われている気がしました。過去を思い出すこと、想像することは、今は亡き人を呼び起こすことだと思います。そして、記憶を共有し、繋いでいくことだと思います。講演でお話されていた皆さんそれぞれが、歴史に対して誠意を持って話されていたと感じます。今日のご講演を、死者を悼むことの「発展版」のような形で、伺いました。(20代)</p> <p>▶オランダ在住で太平洋戦争での日蘭戦争の犠牲者の方たちと関わってきておりますが、追悼の意味付けがやはり日本と違う気がいつもしていました。良くも悪くも日本では戦争の追悼は、ともすると平和への誓いみたいになります。原爆の追悼式もともすると原水爆禁止宣言に収斂されていきます。とすると、いい意味では日本は未来に目を向けてるようですが、もしかしたらもっと犠牲者の方々に寄り添うものが必要なのかな、と考えました。ただこれは今回のズームの批判では全くなく文化接触のとても興味深い側面が出た気がしました。今回の講演も学生さんの質問もとても勉強になりました。(70代)</p>
--	---

3-2-20 国連制定ホロコースト国際デー2022 in 東京 ～ 高校生ワークショップ

開催日時	2022/1/29(土)19:00 - 21:00
内容	<p>前年に引き続き、学校の枠を越えて高校生同士で学び合う機会をつくるため、国連制定の国際デーの時期に合わせて、オンラインワークショップを開催した。</p> <p>【プログラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会メッセージ - イスラエル大使館バラク・シャインさん 2. ワークショップ - 問いづくりと動画視聴 3. ユネスコよりメッセージ - カレル・フラカパヌさん
会場	オンライン zoom ミーティング
参加費	無料
対象/参加人数	高校生と大学生ファシリテーター/27名
参加者アンケートより	<p>▶リモートだったので、全国各地の高校生や大学生と意見交換ができてとても有意義な時間でした！改めて『知ること』『学ぶこと』の大切さを感じたと共に、正しい知識を拡散していくことの重要性も感じました。『歴史を過去のものとして終わらせないために、今の私たちに何ができるのか。』を考えながら生活したいと思います。(高校生)</p> <p>▶国連の方のお話を聞く機会は滅多に無いので、本当に貴重な機会でした。オンラインということで、地方からでも参加することが出来ました。(高校生)</p> <p>▶私にとって2回目となるワークショップ、ある意味、疑問が沢山出てきた時間でした。「なぜ特定の人種を無差別に大虐殺したのか」「なぜナチ政権はあれだけの群衆を引きつけられたのか」と。何事においても、マジョリティとマイノリティが存在してしまう中で、どうしても社会的少数者の人々は声を上げにくいのが現状です。そのような立場に置かれた人々のことをまずは知り、理解しようとする一人ひとりの姿勢が大切であると感じました。誰しも、「それは間違っているよね…」と感じていても、第一人者として否定するのは大きな勇気が必要です。しかしながら、少しでもおかしいと思うことは使命感を持って</p>

	<p>声を上げるべきだと思います。そうすることで、必ず共感してくれる方々がついてきてくれると思います。そのように信じて、「間違っていることには、間違っている」と発信できる人になります。(高校生)</p> <p>▶高校生の学びの姿勢、大学生の進め方が素晴らしいと思いました。フリートークの哲学対話も教員とは違った視点での話で、ハッとさせられることがありました。第一次世界大戦の敗北後のドイツと、今のコロナ禍はよく似ているの指摘もあり、「他人事ではない」受け止めができていたと感じました。カレルさんのお話の中で、ユネスコが教育に直接働きかけている存在と知りました。(教員)</p> <p>▶動画から問い作りの流れもスムーズで、参加しやすい雰囲気でした。グループ1は、問いがテンポよく出されて、参加者のホロコースト学習への意識がとても高いのを感じました。大学生のサポートも気さくで、参加者の持ち味をうまく引き出していたと思います。「ハイル・ヒトラー」の写真から、現代への問題点へのつなぎ(哲学対話)も良かったと思います。いじめや同調圧力、全体主義への傾斜など、深い問題点がコメントで挙げられており、レベルに高い議論になったと思います。(教員)</p>
--	--

3-2-21 人権教育ワークショップ～デンマークのユダヤ人救出を教材に

開催日時	2022/2/15(火)19:00 – 20:30
内容	ホロコーストの当時、ナチ・ドイツ占領下のデンマークでは約 6,000 人のユダヤ系市民の大部分が国外へ脱出して生きのびた。この歴史と記憶を教材にしたワークショップを YMCA との共催で実施した。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	無料
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/150 名
参加者アンケートより	<p>▶リアルタイムで問を考えて投稿できるサイトの活用はとても画期的で、私も大学で活用できたらと思いました。コロナ禍で人とのかかわりが薄くなっていたので、オンライン上であっても対話の機会が持ててリフレッシュにつながりました。</p> <p>▶差別問題の根幹は自分たちの生活からさほど遠いものではなく、過去から学び未来を作っていくことの大切さを実感した。</p> <p>▶とても活発に意見が出ました。人間として、実はあまり差がないのではないか、どのようなコミュニティに所属し、どのような意見の中で生きて来たか。環境や教育によって、人は変わっていくし、時代の中で「自由」が認められているのかも分かれ道になってくると思います。困っている人を助けたい、という人間の中にある本能があつてこそ。</p> <p>▶これから生きていく子どもたちが、この事実を知らないで同じ間違いをしてほしくない、十分な知識と情報を得て、人を助けられる選択ができる人になってほしいという意見がでて、そのとおりだと思いました。</p> <p>▶それぞれの方の意見が聞けて有意義でした。環境や教育が大切だということ、人間の弱さ、両面性、何をもって正しいとするのか。戦時中の日本の加害や、現代の世界や日本の社会にも重ねて考えました。5人それぞれの意見の同じところ違うところ、初めての皆さんとお話しできて豊かな時間でした。</p> <p>▶究極の選択になったときに、自分の判断と行動が一致するかどうか。それを左右するのは何なんだろう。</p>

3-2-22 ポーランドの国際協力 NGO「平和ラボ」公開授業

開催日時	2022/3/7(月)16:30 - 17:30
内容	北海道教育大学より依頼をいただき、ポーランドの国際協力 NGO「Salam Lab 平和ラボ」代表のカロル・ウィルチンスキさんをゲストに迎えての授業を一般公開で実施した。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	カロル・ウィルチンスキさん NGO「平和ラボ」代表
参加費	無料
対象/参加人数	北海道教育大学の学生、興味のある方はどなたでも/77人

3-2-23 大学生ヨーロッパピーススタディ～オンライン3日間(9/15・16・17)

開催日時	2022/3/13(日)、16(水)、19(土)
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/7名
参加者アンケートより	<p>▶過去の問題、昔のこと、ではなくて今にも繋がっていることを痛感させられた3日間でした。過去のことは色々批判したり大きい事も言えるのに、いざ自分にも関わってくる話になるとあんまり強いことは言えないことにドキリとしました。</p> <p>▶自分の中にはない経験などを持っている人から生の声が聴けることがここまで有益な経験になるとは思わなかった。</p> <p>▶この3日間、様々な問題に向き合い、考える機会をいただきました。自分が思いつかなかったことでも、他の参加者の方々の発言から気づかされる視点もあり、毎回一つのテーマから派生して様々な思索をめぐらすこととなりました。正直、自分なりの答えというのはまだ見つけられず、むしろどうして良いのかわからない思いが募るばかりですが、目を反らさずに考えることの重要性を改めて感じました。この3日間で見聞きしたことはきっと今後の私の考えや思いの基盤になると思います。</p> <p>▶はじめはホロコーストについての知識がほぼなかったが、問いを作りながらお話を聞いていく中で、学びを深めていくことができた。他の参加者と問いを共有したり、発言を聞く中で、自分になかった視点に気づくことができ、さまざまな立場から考えることの大切さを知ることができた。</p> <p>▶濃い平和学習をできたように思います。同世代の方たちと、平和について話し合う機会がほとんどなかったので、皆さんがホロコーストや人種差別といった問題に対して、どのような思いを抱いているのかを知ることができて嬉しかったです。</p> <p>▶本を読んだり、レポートを書くことで、考えを吸収したり自信の考えを発信する機会は多いですが、自分の考えを聞いてもらい、さらに反応をもらうということは貴重なので、ゲストの方々に質問できたのは良い機会になったと思います。これからも平和について自分の考えを持ちつつ、本や映画を参照してみたいです。</p>

3-2-24 Kokoro インターン生企画

「ホロコースト生還者ヤーノシュ・ツェグレディさんと話す会」

開催日時	2022/3/25(金)16:00 – 18:00
内容	インターン 2 期生の企画・運営で、ホロコースト生還者ヤーノシュ・ツェグレディさんをお招きした対話の会を対面で開催した。 企画・運営担当 Kokoro インターン 長田知実/後藤瑞穂/小山内明純/永田遥/大橋拓真
会場	ゲーテ・インスティトゥート東京
ゲスト	ヤーノシュ・ツェグレディさん
参加費	無料
対象/参加人数	18～24 歳/13 人
学生たちから ヤーノシュさんへ の質問	Q.1 なぜドイツに留学したのですか？ Q.2 (ヤーノシュさんにとって) ホロコーストの記憶はペラペラと話せることではなく、思い出したくないことかもしれない。それでもホロコーストの経験を人に伝えようと思ったのはなぜですか？その経緯は何ですか？ Q.4 ホロコーストを扱う映画についてどう思いますか？ Q5 ホロコーストの体験を伝えていく難しさがあると思います。現代社会に生きる人たちがホロコーストを学ぶ意味、意義はなんだと思いますか？子供に「どうしてホロコーストを学ぶの？」聞かれたら何と答えますか？ 勇気ある人もいたと思います。その中で、ホロコーストの時に助けてくれなかった人についてどう思いますか？

4 人権・平和教育に関する普及啓発事業

4-1. 「Kokoro 通信」(ニュースレター)

Kokoro 通信(A4、8 ページ)が 2 月に 200 部発行し、会員を中心に配布した。

4-2. 「Kokoro メルマガ」の発行

Kokoro メルマガは、11 回発行した。イベント情報ほか様々な話題を合計 8,880 名にメールで提供した。

	号数	発行時期	タイトル	発行部数
1	91 号	2021/4/30	ハンナ生誕 90 年	807
2	92 号	2021/5/15	小さなつばさ	807
3	93 号	2021/6/2	Kokoro の 1 年間まるごと	807
4	94 号	2021/6/8	アクティブな読書会	807
5	95 号	2021/6/24	オンラインミュージアム	807
6	96 号	2021/7/14	ドイツと繋ぐ夏 4 日間	807
7	97 号	2021/8/3	中谷剛さんと中村美耶さん対談	807
8	98 号	2021/10/8	ベルリン発！歴史フェスティバル	807
9	99 号	2021/11/15	オンライン版ポーランドスタディツアー	807
10	100 号	2021/11/22	映画の秋！	807
11	110 号	2022/1/15	歴史修正主義	810

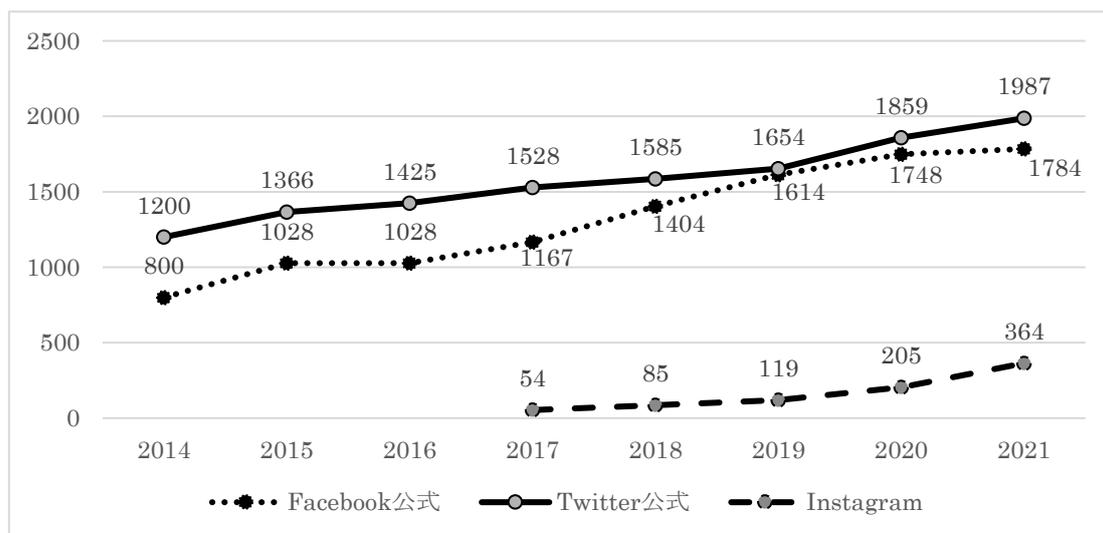
4-3. その他の SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を利用した情報発信

ブログやフェイスブック、ツイッターなどの SNS による定期的な情報発信を継続して行った。海外のニュースや、新刊図書のご案内など歴史を身近に感じてもらえるような情報発信を心がけた。コロナ禍でイベント情報は SNS での広報が最も効果的だった。

2020 年度より始めた YouTube の「Kokoro のチャンネル」での映像記録の公開および広報動画の投稿を継続して実施した。

Instagram では新しいアカウント「@KokoroYouth」を開始し、インターン生が中心となって投稿を始めた。

▶主な SNS のフォロワー数経緯



4-4. メディア寄稿、取材

下記の雑誌、新聞、テレビで活動が計 16 回取り上げられた。

1. 2021 年 6 月 8 日	媒体 聖教新聞
〈私がつくる平和の文化Ⅲ〉第 6 回 同じ人間であるということ	
2. 2021 年 6 月 16 日	媒体 朝日小学生新聞
13 歳で虐殺されたユダヤ人少女 ハンナ通して歴史から学んで／かばんで日本との縁 生誕 90 年／めいのララさんがオンライン講演「見ているだけの人にならないで」	
3. 2021 年 7 月 16 日	媒体 Passport
How Japan's Holocaust centres are addressing the legacy of war	
4. 2021 年 7 月 22 日	媒体 時事通信
組織委員会が小林賢太郎氏の解任を発表	
5. 2021 年 7 月 22 日	媒体 TBS ラジオ「荻上チキ・Session」
組織委員会が小林賢太郎氏の解任を発表	
6. 2021 年 7 月 29 日	媒体 THE MAINICHI
9 Japan students to host Holocaust exhibit in push for peace borne from pandemic	
7. 2021 年 8 月 4 日	媒体 毎日新聞
「ホロコースト」歴史展、学生企画 コロナ禍の「もやもや」契機	
8. 2021 年 8 月 11 日	媒体 毎日新聞
加害者、被害者、傍観者に焦点 学生がホロコースト展 大宮／埼玉	
9. 2021 年 8 月 11 日	媒体 東京新聞
今の私がホロコーストの時代生きたら「正義」貫けるか? 19 歳が考えた 大宮図書館で仲間 8 人と企画展	

10.2021年8月12日	媒体 埼玉新聞
歴史を自分ごとに／大宮図書館でホロコースト展／学生ら9人「8カ月間が形になった」	
11.2022年1月18日	媒体 TBS ラジオ「荻上チキ・Session」
アンネの密告者を特定か。元FBI捜査官らが指摘。	
12.2022年1月27日	媒体 国連グローバルコミュニケーション局
ホロコースト犠牲者を想起する国際デー	
13.2022年1月27日	媒体 首相官邸
ホロコースト犠牲者を想起する国際デー	
14.2022年2月16日	媒体 教育家庭新聞
アンネが未来に紡いだメッセージを同世代として考える～東京女学館 中学校・高等学校	
15.2022年3月9日	媒体 シノドス
ポーランド＝ウクライナ国境における人道支援活動の現場から――NGO「平和ラボ」のカロル・ヴィルチンスキ氏による現状報告	
16.2022年3月18日	媒体 読売新聞
中2講演会「ハンナのかばん」、ホロコーストを考える…晃華	

13歳で虐殺されたユダヤ人少女
ハンナを通して歴史から学んで

「ハンナ・ブレイド」13歳5月16日「高麗」そう書かれたかばんが、東京都のホロコースト教育資料センターにありま... 第2次世界大戦中、ユダヤ人家族がホロコーストで殺されたハンナ・ブレイドの物語が描かれています。取組の中心は、ハンナと父の体験を語りつづけて活動しています。(晃華)

かばんで日本との縁、生誕90年

2021年6月16日
朝日小学生新聞

今の私がホロコーストの時代生きたら 「正義」買けるか？
19歳が考えた 大宮図書館で仲間8人と企画展



企画展を開いた栗川さん（左から2人目）や西村さん（同3人目）ら実行委員のメンバー（前列はさいたま市大宮区で暮らしがホロコーストの時代を生きていたら、こんな視点から、第二次世界大戦中にナチス・ドイツが進めたユダヤ人らの大量虐殺を見つめ直す歴史展が十日、さいたま市大宮区の大宮図書館で始まった。ある大学生が正義を巡って感じた「もやもや」をきっかけに、同世代の仲間8人と企画した。十五日まで。（近藤純義）

「わたし」と『わたし』展～ホロコーストの記憶と今を生きる私たち」は、史実の紹介パネルや歴史資料、歴史上の出来事をまとめた日めくりカレンダーなどを展示。資料を基に、実際にナチス親衛隊や収容所に送られたユダヤ人ら、立場が異なる市民の人生を並べた年表もある。

発案したのは、さいたま市に住む東京大学大2年の奥川穂理（ほり）さん（19）。N P O法人ホロコースト教育資料センター（東京）が昨年八月に開いたオンラインイベントに参

めいのララさんがオンライン展覧会
「見ているだけの人にならないで」

オンライン展覧会で話すララさん（左）と石井史子さん

ジョージさんは今年、90歳で誕生しています。ハンナさんが生きていたら、今年で90歳。誕生日がある光景が、ホロコースト教育資料センターで開いたオンラインイベントで、ララさんが語り継ぎました。

大宮図書館でホロコースト展 15日まで

歴史を自分ごとに

学生ら「8カ月間が形になった」

多くの人が訪れた「わたし」と『わたし』展 10日午前、さいたま市大宮区の手立大宮図書館 1階展示スペース

第2次世界大戦中のナチス・ドイツによるホロコースト（ユダヤ人虐殺）を題材にした企画展「わたし」と『わたし』展、ホロコーストの記憶と今を生きる私たち」が、10日、さいたま市大宮区の大宮図書館で始まった。企画展は、さいたま市大宮区在住の大学生ら9人が、今年8月から11月まで、大宮図書館で約8カ月の間、企画展を準備してきた。企画展は、さいたま市大宮区の大宮図書館で始まった。企画展は、さいたま市大宮区在住の大学生ら9人が、今年8月から11月まで、大宮図書館で約8カ月の間、企画展を準備してきた。

2021年8月12日 埼玉新聞

The Mainichi
Japan's National Daily Since 1822

9 Japan students to host Holocaust exhibit in push for peace borne from pandemic



SAITAMA -- Nine university students residing in east Japan got together to organize a six-day exhibit, of which the title family means, "History and me: How memories of the Holocaust relate to each of us" to be held in this city -- a display that would not have been borne if it weren't for the individual adversities faced during the COVID-19 pandemic.

The event will be held from Aug. 10 to 15, coinciding with the 76th anniversary of the end of World War II in Japan. Oniwa Library will be the venue, located in Oniwa Ward of the capital city of Saitama Prefecture.

The display, all in Japanese, includes some 40 explanatory panels, history textbooks, and a handmade calendar introducing historical events. It focuses on how specific individuals of the past and present perceived of the Holocaust.

The project was initiated on Aug. 9, 2020, almost exactly a year before the upcoming launch of the event. Kiri Okagawa, now 19, then a first-year student at Tokyo Gakugei University, took part in an online book reading session as one of the panelists. The book was about how the Germans in the post-war era had faced up to their past. A discussion centered on a "culture of remembrance" was held among four university students and the author, Hiroto Oka, a historian and educator living in Germany.

Inspired, Okagawa buried herself in books about the White Rose anti-Nazi resistance movement at neighboring Oniwa Library. The resistance, sparked in 1942, was led by university students. It ended in 1943 when core members were arrested and executed for treason.



2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
① 教材の制作及び提供事業	ホロコーストの教材パネル(オンライン含む)やビデオの制作・提供	随時	事務所	1名	不特定多数	17,260
② 書籍・資料などの収集及び提供事業	SNSなどでのおすすめ図書の紹介	随時	事務所	1名	教育関係者、一般100名	72,055
	ブクログ(登録1428冊)					
③ 講演会、セミナー等の開催事業	訪問授業および講演会	54回	小中高校、大学	7名	小中高校生、大学生、教員、保護者、一般7,829人以上	3,302,284
	NPO自主企画	38回	オンライン		1,676人	
④ 人権・平和教育に関する普及啓発事業	ニュースレター作成・配布	1回	事務所	2名	会員、教員、大学生、保護者など200名	750,156
	メールマガジン	11回		2名	8,880名	
	ホームページ、ブログ	随時		2名	不特定多数	
	メディア寄稿・出演	16回		2名	不特定多数	
	SNSツールの活用 ・Facebook ・Twitter ・Instagram ・YouTube	週3回		10名	不特定多数	